

北 支 視 察 談

(昭和 13 年 11 月 29 日日本鐵鋼協會講演會講演)

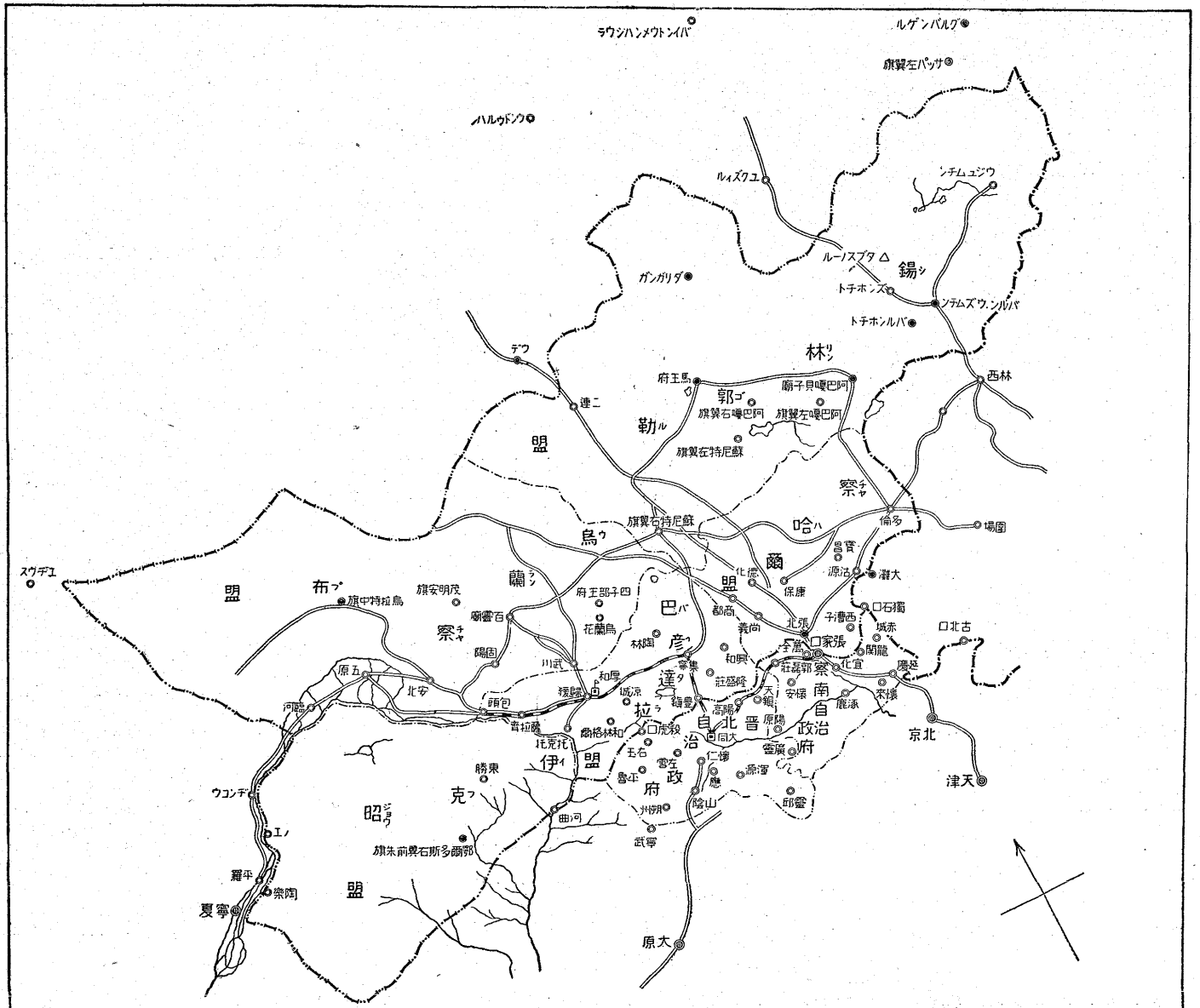
松 下 長 久*

私は9月の中旬から約1箇月北支に参ります機会を得ましたのでありますが、私と致しましては初めて支那に参りましたのでありますけれども、期間が短時日でありましたのと未だ充分治安が保たれて居らぬので、本線は安全であります、少し横道に入りますと匪賊が居るので、軍の御盡力によりまして視察が出来ましたのでありますから視察

した所も非常に限られた範囲でございます。其の點は豫め御許を願ひます。

9月16日博多から飛行機で直接に北京に参りました當日は常に天氣に恵まれて、僅か6時間で北京に着いたのであります。其れから17, 18, 19日迄北京に特別の用で滞在致して居りまして、20日に先づ張家口に参りました。

第 1 圖



* 日本鋼管株式會

此處に圖面がありますが、小さくてお分り悪くと思ひますが、此處が北京で、此處が張家口であります。北京と張家口の間は汽車で参りましたが、北京の中央にある前門驛を8時20分に發車しますと張河口に3時10分に着くので、約7時間ばかりかゝるのでありまして、此の間に、北京から汽車で2時間許り参りました所に日本の箱根に匹敵致しますやうな峠がございます。即八達嶺でありまして其東方の驛を南口と申しまして、此處で激戦があつたのであります。それから峠を越へると居庸關、三堡、青龍橋等の驛があります。此處は即蒙古の入口であります。今回の日支事變によりまして従來支那領であつた察哈爾、綏遠兩省の大部分の地域と内蒙古とが一つになりまして蒙疆となつたのであります。是は北支と政治機構が違て居りまして、各々自治政府を形ち作て居ります。即察南自治政府、晋北自治政府、蒙古聯盟自治政府がありまして、其地域と面積等は次の通りであります。

- (1) 蒙古聯盟自治政府 面積 990,790 km^2
 人口 2,623,506
 行政區劃 チナハル 察哈爾 バイレンクラ 巴彥塔拉 シリシゴル 錫林郭勒
イフチヨウ 伊克昭 ウランヂャツフ 烏蘭察布
- (2) 察南自治政府 面積 49,562 km^2
 人口 1,315,936
 延慶、蔚縣、懷來、赤城、懷安、宣化、萬全、
 龍關、陽原、涿鹿の10縣より成る
- (3) 晋北自治政府 舊山西省の晋北13縣より成る
 面積 30,661 km^2
 人口 1,527,237

そして三つの自治政府が相互の善隣關係を促進し各々共通の問題、例へば金融、産業、交通、防共、民族協和等に對しましてお互に相協議し、且實行する爲に蒙疆聯合委員會が出来たのでございまして、それが張家口に事務所を持って居ります。先づ其の事務所を訪ねまして、其處で最高顧問の金井博士から色々蒙古のことに付て御話を伺たのであります。元來蒙古の事情に暗い私は蒙古と云ふ所はあまり産業の發達しておらぬ所であらうと考へて居たのであります。寧ろ反對でありまして畜産を主とし農産、礦産相次ぐ状態であります。其の産物は北支に送られ、其處で消費せられて居りまして寧ろ蒙古からは輸出の状態になつて居ります。

此の三政府の統治下にあります所のあの大きな區域にどの位の住民が居るかと申しますと、はつきり致しませぬが

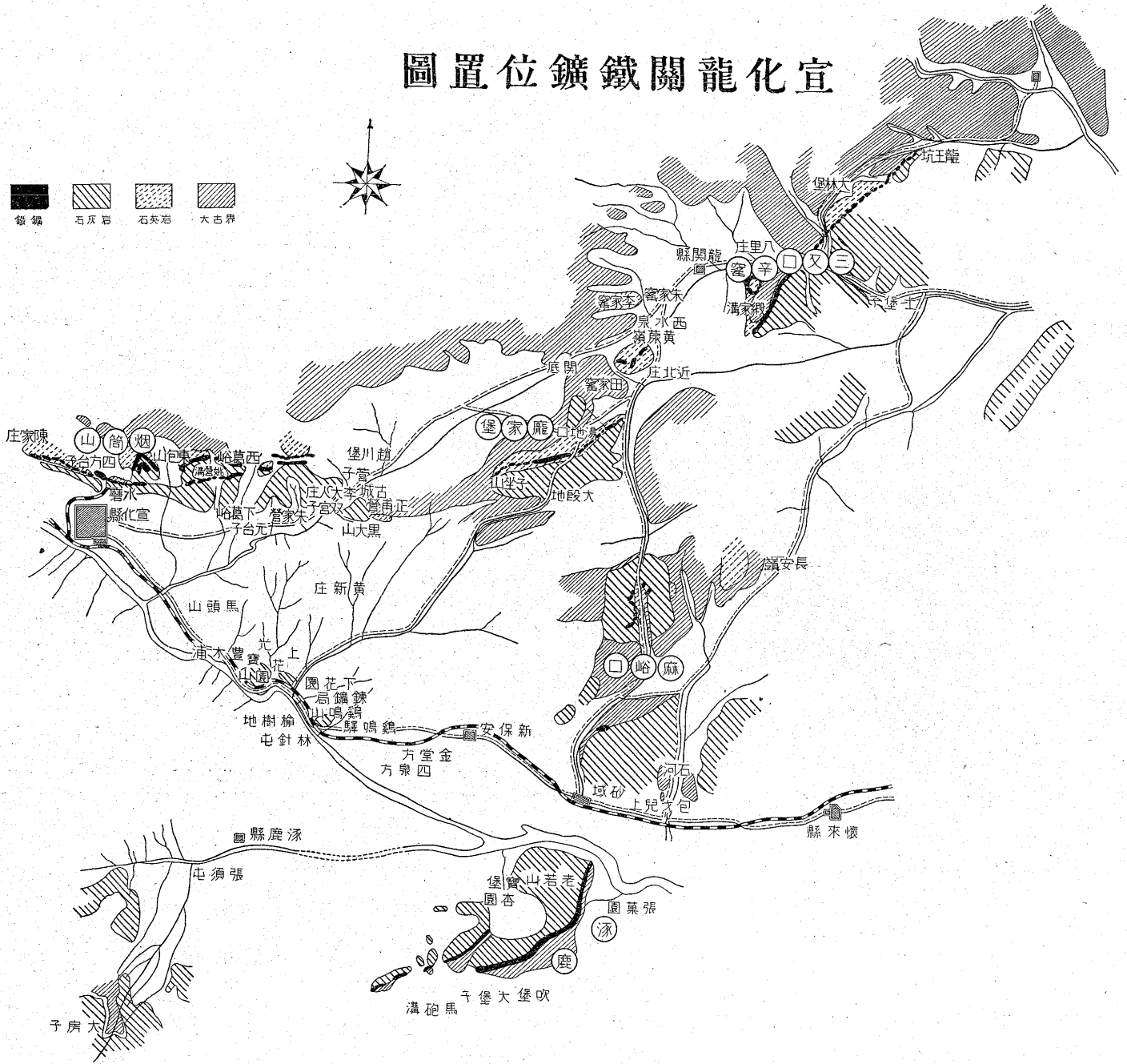
5,000,000 人から 7,000,000 人位であらうと言ふ事でございます。即、東京市の人口よりも少いか、同じ位の人口が此の非常に廣大な所に居るのでございます。蒙古と申しますので此の三區域には主に蒙古人が居るのかと考へるのであります。事實は寧ろ反對で約 400,000 の蒙古人が居るばかりであります。蒙古人は總體 3,500,000 ばかり居るさうでございますが、其の分布状態は外蒙に 800,000 滿洲國北部より西部に 1,300,000 蒙疆自治政府下に 400,000、新疆に 500,000 其の他に 500,000 であります自治政府下に居る 400,000 の蒙古人に對して漢人が約 3,800,000 居るさうでありますから、漢人が蒙古人に對して約 10 倍居るのであります。

此の外蒙古のことに付きまして色々御話を承たのであります。茲ではそれを省きまして、最も我々に關係のございます鐵鑛及び石炭に付きまして申し上げたいと思ひます。

張家口に着きましたのは 20 日でございますが、其の明る日即 9 月 21 日に張家口から自動車で龍烟鐵山の視察に参りました。張家口から自動車で宣化迄約 40 分かゝります。此の宣化に只今龍烟鐵鑛の採掘を請負て居ります所の興中公司の事務所がございます。先づ其の事務所に参りまして、其處から又自動車で龍烟鐵山の一部である烟筒山の採鑛場に参たのであります。大體龍烟鐵鑛は圖に示してございましてやうに非常に廣大なる地域に分布せられて居るのでございまして、是が只今申し上げた宣化であります。此の宣化から懷來を結んだ線を底邊とし、其の北東隅とにある赤城縣を頂點とする三角形の内に鐵鑛床が分布されてあるのでございます。此の底邊の下に涿鹿と云ふ一つの鐵鑛々區がございます。是も其の一部であると思ひます。此の龍烟山鐵の發見は西曆 1914 年に支那の商工省とも申すべき農工部の顧問アンダーソン^{ロウカ}の所へ、デンマーク人の鑛山技師が龍關の鐵鑛石と稱するサンプルを持って來たのが最初であります。其の後調査の結果優良なる事を認め探鑛に着手し懷來縣麻峪口で同様の鐵鑛を發見し、續ひて龍關、辛窰、三又方面に鐵鑛を發見致しました。さうして西曆 1914 年の 11 月に龐家保^{ロウカ}に最も良好なる赤鐵鑛を發見しました。恰度歐州大戰勃發の爲鐵價暴騰したので此の鑛石も注目の的となり西曆 1917 年(民國 7 年)に官民合弁の龍烟公司が成立し民國 8 年以降採掘に着手したのであります。民國 10~12 年の間に約 100,000t 程採掘したさうでございますが、其の中 400,000t を漢陽に送て試用したさうであります。民國 14 年以後一般に不況の

第 2 圖

圖置位鑛鐵關龍化宜



爲仕事を中止して居りましたが、今回の事變で蒙疆政府に没收されて、昨年(昭和12年)10月4日に興中公司に採掘を命じたのであります。採掘場事務所より少し手前に水磨と云ふ貯鑛場があります。其處迄宣化より約9kmあるのでありまして事變により軌條を撤去されたのでありますが、それを11月下旬に布設に着手し12月18日に出来まして20日から使用を始めたそうでありまして、50,000tばかりあつた貯鑛を内地及石景山に送出したのであります。現在採掘して居ります所は、主に東山採掘場であります。其の外北山、及び南山も作業を致して居ります。其の外北山、及び南山も作業を致して居ります。東山の採掘場は主に

坑内掘であります。一部露天掘の用意を致して居りました。大體此處の地質は第四紀層白堊紀の礫岩層原生代の片麻岩系より成立して居りまして、鐵鑛石は原成代の珪岩層と其の上層にある珪質石灰岩層との間にあるのださうであります。此處に其の分析を擧げて置きました。

鑛區名	鐵	珪酸	硫黃	磷
烟筒山	48.7	21.7	0.03	0.11
龍家堡	58.5	12.7	痕跡	0.16
辛窰	54.0	16.1	〃	0.09
烟筒山	(昭和9年滿鐵分析)			

區域名	試驗數	鐵	珪酸	磷	硫黃	酸化チタン
南山	4	51.43	16.57	0.243	0.064	0.13
北山	3	48.35	21.60	0.138	0.016	0.38
東山	22	49.67	17.20	0.039	0.029	0.50以下

尙先程申し上げましたやうに、龐家堡、三各、辛窰、麻峪口等澤山鑛床があるのでありますが、私が参りました時でも烟筒山の採掘場を越えますと匪賊が居るので調査にも行かれないのであります。其の時の話では毎日匪賊の動勢を知る爲めに前晚偵察を出して置くそであります。商人風に變裝して隣村に行き、匪賊が出て來さうだと言ふことが分ると早速報告する事になつて居るとのこを聞きましてさう言ふ譯で現在採掘して居る以外の所は未だ手が着けられない状態であります。11月27日頃の新聞に新たに調査隊を編成して各鑛區の鑛量等を調べる事になつたと云ふことが出て居りましたが、其の後匪賊が追拂はれたことと

考へられます。それで鑛量がどの位あるか、是もはつきりしないのでありますが、発見しました當時の調では47,000,000t 其の後滿鐵の調査では92,000,000t 其の後又100,000,000t と云ふやうに書いてあるのもございすが兎に角相當の量があると云ふことが分るのであります。唯斯う言ふ非常に奥の所にありまして、尙此の圖面で(第2圖参照)御覽になりますやうに、只今採掘をして居ります烟筒山は宣化よりの分岐線に近い所にありますからして、此のレールを段々延ばして行て仕事をする事が出来るので便利であります、其の奥の方にある鑛區は內蒙古境の山に近くなるのでありますから、鐵道を引込むことに費用

第 3 圖



と困難を伴ふので、此の方面の鐵鑛を採りますには相當費用が嵩むだらうと思ひます。只今烟筒山からの出鑛量は5月には1日平均 340t でありましたが11月以降は1日 1,700t 即1ヶ年 500,000t 出鑛を目標として諸計畫を樹立しつつあるのであります。それから日本人の現場係及職員が約 5~60 名居りまして、其の外に苦力が約 2,000 人居ります、其の半分位が請負で仕事をして居ります。採掘能力は1日に先づ 0.3 から 0.5t であります。人夫賃は午前7時より午後7時迄で 30 錢であつたのが近頃大部人夫賃が上りまして 60 錢位になつて居るやうであります。滿洲人は 1.60 錢日本人は 5 圓と言ふことであります。只今鑛石は石景山に一部送り、一部は塘沽迄出しまして、塘沽から内地に送て居ります。此の塘沽に於ける積込等の状況につきましては若し時間がございましたら後で申し上げたいと思ひます。大體此の鑛石を日本へ持て來ると 17 圓位になるのではないかと言ふことを聞きました。

龍烟鐵鑛のことは其の位に致しまして、次の日即9月22日に張家口から飛行機で大同へ参りました。大同、張家口、張家口北京は殆ど同じ位な距離でありますから汽車で参りますと6時間位掛かるのでありますが、飛行機では大同迄1時間で着きます。此の大同炭田の事に就きましては今から約10年前、昭和7年に臨時産業調査局技師の門倉三能氏が4ヶ月に亘り詳細なる調査をされて居りますので其の後大同炭に就て説明をされる場合は殆ど皆門倉技師の調査報告に依て居るやうであります。此の炭田の位置は圖に示してございますやうに、大同縣城の西南に位し、其の延長が約 110~20 km 幅が 17 km で、約 10 里四方と云はれる非常に廣い炭田であります。有名な大同の石佛は此の炭田の北端に沿ふて流れる十里河の沿岸砂岩に彫刻せられたのであります。只今採炭をして居ります所は炭田の寧ろ北部にある水神廟河を入た所に二三箇所ございます。北京から蒙古に入りますには先程申しました八達嶺越るのであります。是から一體の高原になります。即晋北、察南の南の方は大高原であります、北の方は丘陵がずつとあるのであります。丘陵が又一段と高い臺になつて居ります。其の丘陵の一部に此の炭田があるのであります。其の南は大同平野と申しますのですが、非常に廣い平野があります。私達は大同から自動車で口泉鎮を通りまして、永定莊と云ふ炭坑に着きました。只今稼業をして居りますのは永定莊、煤峪口、保晋の3ヶ所ありますが、時間がございませぬので、永定莊のシャフトを二つ入て

坑内を見たのであります。此の地方の地質は、寒武利亞、奥陶紀の頁岩石灰岩より成り、其の上層に下部含炭層である二疊紀石炭層があるのであります。次に上部石炭層である侏羅紀頁岩疊岩、砂岩が其の上部に互層をなして居ります。炭層は澤山ありますが隊行出來ますのは七層だそうであります。尙炭量は門倉技師の調査に依りますと、約 120 億と言ふことになつて居りまして、山東省全體の炭量が約 1,270 億と言ふ事でありまして、其の 1/10 が此の大同にあるのであります。

大同炭分析 (大同炭鑛分析)

	水分	灰分	揮發分	固定炭素	硫黃	發熱量	コークス性狀
永定莊一層	3.7	4.9	27.4	64.0	0.76	7,396	非弱
〃 二層	3.2	5.3	26.9	64.6	0.69	7,406	弱粘結
煤峪口坑	3.4	5.0	30.3	61.3	0.52	7,343	〃
保晋坑	3.8	2.1	34.6	59.5	0.33	7,714	〃
石炭紀石炭	4.3	9.6	32.1	54.0	1.61	6,804	粘結

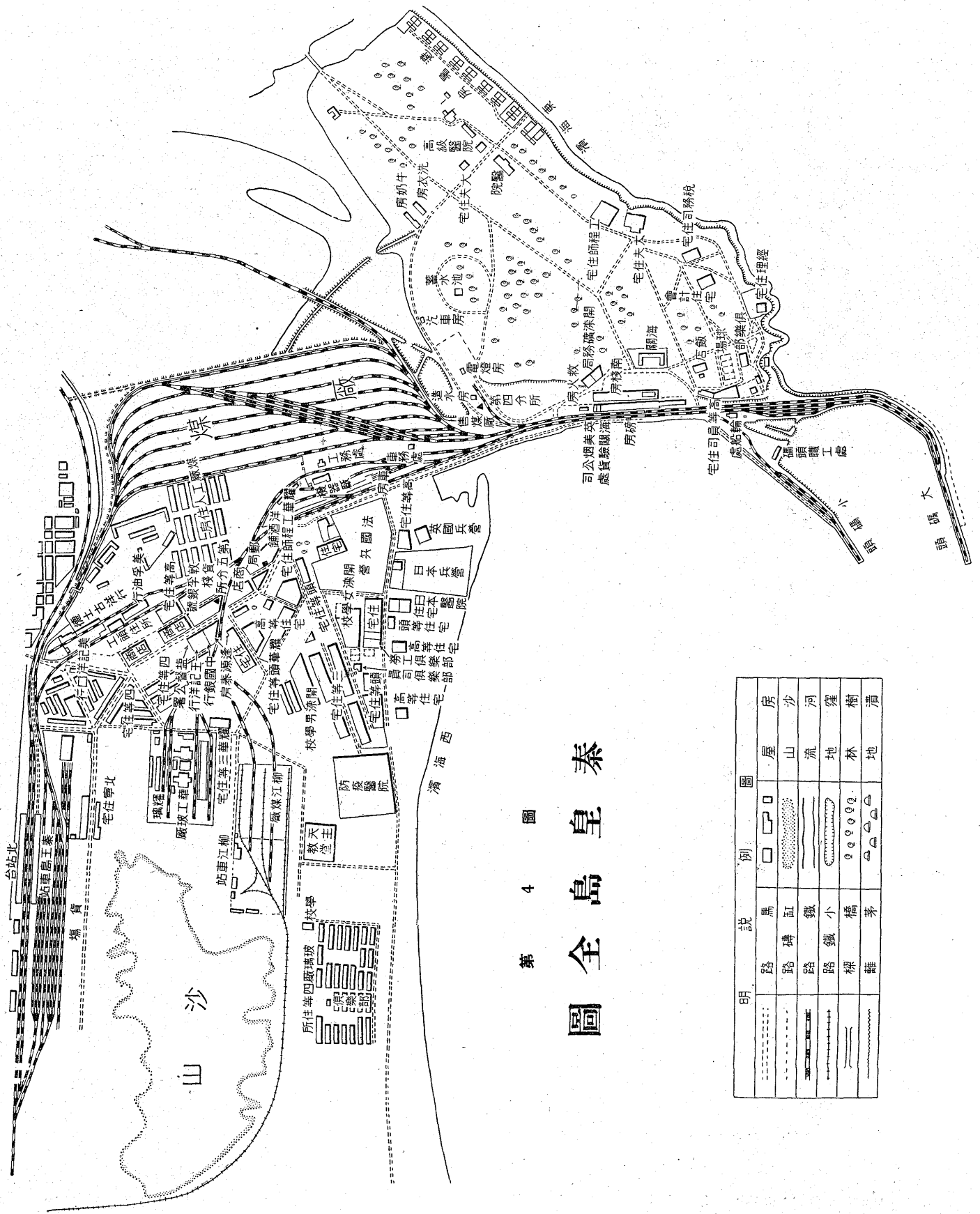
尙其の分析を上表に掲げて置きましたが、割合に揮發分が多いボイラー其の外の燃料として都合の好いフレミーングコールの性質を持つて居るのであります。山西炭の内でも大變好いものであるとの事でありまして、私共が入りました永定莊の第一シャフトは深さ 75m 捲上機が 200~220 HP で、捲上能力は1時間 50~60t であります。此のシャフトには相當水が出ますので我々は雨具の如き上衣を付け柳枝製のヘルメット形帽子を被て入たのでありますが、ガスが少いのでカンテラを提げて中へ入りました。現在採掘方法はロングウォール及びピラーウォーキングであります。尙電氣ドリルによる採掘試験をやつて居りました。只今は坑道もまだ浅いので扇風機を使つて居りません。即自然通風であります、永定莊及び保晋に各 100 HP の扇風機が用意してありまして、必要のある時に使ふさうであります。それから湧水は永定莊が毎分 35^{ft}、煤峪口が 45^{ft}、保晋が 42^{ft} でありまして、それらの水を揚げますのにポンプが永定莊が 8 臺、煤峪口に 3 臺、保晋に 15 臺此の保晋は水が少いのにポンプを餘計使つて居ると言ふのは、私は参りませぬから分りませぬが、坑道があつちこつち曲つて居る關係だ相であります。それから永定莊に 125 kVA の發電機 2 臺及び 125 kVA の發電機が 1 臺ございまして、是が動力及び電燈用に充てゝ居ります。尙保晋にも 38 HP の發電機が 1 臺ございまして、職員は日本人 46 人支那人職員 13 人、只今苦力が少し少いと云ふことではありますが、常ならば 5,000 人位働いて居るさうで出炭能力は入坑 1 人當り 0.85t 總就業人員に對して 0.52t ださう

であります。大同炭は一般に灰が少い炭でありまして、炭の厚さが1mから厚いのは10mに達します。殆ど選炭を必要とさせぬ。日本の炭の需要は御承知のやうに段々殖えて参りました。今年ほどの位入用であるか分りませぬが90,000,000t位であります。近く1億噸位になるだらうと云ふ事であります。そうなりますと、なかなか内地の炭だけでは間に合はないことになる。それに対して質から云ても一番手頃の炭は此の大同炭田の炭であらうと云ふことでありまして、之れに対して昭和17年には10,000,000t出す、昭和22年には30,000,000t出さうと云ふ計畫があるやうに聞いて居ります。今度の事變に依りまして斯様な有望なる炭田を得ましたことは日本の産業に取りまして非常に好都合なことだと思ひます。併し此所から1ヶ年10,000,000t猶進んで30,000,000tの炭を日本内地に持て来ると云ふことは運搬に対して考慮を要することでありまして、特に先程申上げた八達嶺を通ります爲めに運搬能力が低下します、これは勾配の急な所は1/30もある爲めであります。それで之れを緩和する爲め懷來から唐山を通ります新線を引き新に一つの港を作て、其の目的を達しようと思ふ計畫もある相であります。併し之に対しては多額の建設費と相當の時間を要するのでありますから、なかなか急に實現は出来ないだらうと思ひますが日本の産業の爲には是非やらなければならぬことでないかと考へます。大同の視察は非常に時間が短かうございまして、先程申したやうに朝9時に張家口から飛行機で出發しまして10時頃大同に着陸、直ちに自動車で28kmの道を炭坑に行き、12時から、3時頃迄視察したのでありますから極く短時間でありましたので充分視察は出来ませんでした次の日即ち9月23日に大同から飛行機で直ちに北京迄戻りました。飛行機から其の前日視察致しました。烟筒山附近を見ますと地形がよく分りまして大變参考になりました特に採掘をして居る所は鐵鑛が山から現はれて居るものでありますから赤く見えまして、非常に愉快に感じました。大同北京間を汽車で乗りますと、約12時間の行程でありますのが僅か2時間で北京に着いたのであります。それから其の次の日には塘沽、秦皇島及び開灤炭坑を視察に参たのであります。9月24日に又北京前門驛を出發致し天津迄参りまして、25日に塘沽の港を見學 26日は山海關へ行て泊りました。山海關などと云ふ所は詰らぬ所だらうと思たのであります、なかなか立派なホテルがございまして、非常に氣持好く一晩を過ごしました。其の翌日9月

27日に秦皇島へ参りました。

是は開灤炭礦から貰た圖であります。中央が秦皇島の驛であります。其れに續いて貯炭場がありまして、それから約55mばかり出ました處に二つ棧橋があります。秦皇島は山海關から約4里餘南東方の海岸にありまして、此の方に小さな山が繋がつて居ります、西南が海岸で、主に砂地で非常に水が綺麗であります、海の深さは大體1哩先へ行くと4尋位になるさうでありまして、此處は北支に於ける不凍港の一つであるのであります。初めて秦皇島を用ひましたのは西曆1900年の團匪事件の時で當時列國協議の結果上陸地として假棧橋を築造したのが初まりであります只今は開灤炭礦會社に依りまして東西に2本の棧橋が出来て居ります。東の棧橋は長1,950ft、水深23ftで8,000tから5,000t級の船5隻を繫留する事が出来、西棧橋は375ft、水深21ftで3,000t級の船を兩側に各1艘づつ繫留する事が出来るのであります。尙東棧橋には最大10,000t位の船が着くと申して居りますが8,000t位のものがマキシマムだらうと思ひます。石炭積込には機械設備を持って居りませぬので、皆苦力が積込を致します關係上大きな船が着きますと、棧橋から船迄の歩み板が急勾配になりますので6,000t位の船を着けるのが一番積込には都合が好いと云ふことであります。

私の方の會社でも開平炭を只今相當多量に使用して居ります。所がなかなか炭が参りませぬので、此處に参りました序に色々事情を聞いて見たのであります、事變關係で近海廻りの適當な船が約束出来ないで、大形汽船が廻送される。従て積込に非常に時間が掛かる。又初め船が空の時には先刻申述べた様に棧橋に屹立つて着く爲め苦力では積込めないで、デリックで多少積込んで、船が下て来てから苦力を使ふ爲めに積込に時間が掛かると云ふ事であります。又石炭の出廻りの悪い他の原因は貨車の少いと云事でありす。只今開灤炭礦會社自身が持て居ります貨車が600輛、南滿鐵道會社から借りました貨車が100輛であります。最近40輛増したと云ふ事がありますが、勿論740輛の中修繕するものもありますので、貨車廻りが悪いのであります。其の爲に、山元には相當ストックがありまして、秦皇島の貯炭場には殆どストックして居りませぬ。それ故炭坑から直接貨車を棧橋に廻送して積込む事にする。さうすると、船が大きい爲めに積込に時間が掛かる。それが爲貨車が明かないと云ふ譯で日本向きの石炭の積出しが順調にならないのださうであります。然



第 4 圖 秦島全圖

明	說	例	圖
踏馬	踏馬	□ □ □ □	房
踏磚	踏磚	▨ ▨ ▨ ▨	屋
踏鐵	踏鐵	▬ ▬ ▬ ▬	沙
踏橋	踏橋	〰 〰 〰 〰	河
樑	樑	〰 〰 〰 〰	地
茅	茅	〰 〰 〰 〰	林
		〰 〰 〰 〰	地
		〰 〰 〰 〰	溝

し是に對して改善方法を會社並に各關係者が御努力になつておりました。開灤炭礦會社は、秦皇島の少し北の方から北戴河と云ふ有名な避暑地がありますが、其の邊の海岸をずつと買収して居りまして、それが約 3,500,000 坪ばかりになるさうであります。非常に廣い場所を開灤炭礦の所有地として持て居ります爲に、外の者が此の附近に港灣を造ることはちよつと困難であると思はれます。従て、塘沽と秦皇島の間に相當な港灣を造らなければならないのではないかと思ひます。

秦皇島のことは其の位に致しまして、秦皇島を見ました其の夜我々は汽車で唐山即ち開灤炭礦の本事務所のあります唐山迄参て泊りまして、其の次の日に、是も時間の都合で非常に僅かの間唐山炭礦の屋外設備だけを見まして、直ちに又汽車で林西礦山に参りました。そこに2時間程居りましてから趙各莊の方に参て、趙各莊のシャフトを一つ降りて見たのであります。開灤炭礦會社に就きましては既に御承知の通り、開平礦務公司与灤州礦務公司の二つが一緒になつたのでありますが、非常に古くから有名な炭田でありまして、其の歴史を長々と述べますと時間を取りますから簡単に致しますが、西曆 1878 年即ち今から 60 年前（光緒 4 年）當時は清國の總理大臣であつた有名なる李鴻章の生きて居た時分でありまして、唐山附近に良好なる炭のある事を知りましたので、唐廷樞に命じて、開平礦務公司を設立したのであります。それが色々な事情でイギリス人に殆ど權利を握られるやうになりました爲に、今度は支那人側としまして灤州礦務公司与云ふものを 1900 年に造りました。然るに両者が非常に競争する様になつたので、兩者共に立行かない事になつた結果、西曆 1912 年（民國元年・明治 45 年）に兩公司が聯合して營業する契約を締結し、其の名を開灤礦務總局と稱したのであります。只今採炭致して居ります所は唐山、林西、馬家溝及び趙各莊であります。もう一つ唐家莊と云ふのがありますが、是は昭和 10 年から中止して居ります。

此の炭田には炭層が澤山でございまして先づ採掘し得るものが 13 位ある。それから厚さは 1~8m あると云ふことであります。私等は極く短時間趙各莊に於きまして見學したので能く分りませぬが、殆ど炭の中に穴を掘て仕事をして居る状態で非常に厚い層であると云ふことを認めました。炭量はどの位あるか判然致しません。開灤礦務局の調査にては 10 億噸であると申しております。又或る英人の調査では 12 億噸と申しております。先づ信用の置け

る處は 5 億噸位だらうと云ふことであります。次に各礦山に於ける炭量は次の表に示しておきました。

各炭礦に於ける埋藏量（民國 22 年礦務局調査）

唐山	馬家溝	唐家莊	林西	趙各莊	計
42,865,000	33,505,000	23,200,000	81,326,000	93,195,000	274,092,000

只今の採炭量は唐山が 1 日 2,500t、林西 4,000t、趙各莊 6,000t、唐家莊 2,500t で合計 15,000t 位掘て居ります。10 月の實績は一番多量に採掘した日が 18,000t であります。昭和 8 年には約 4,750,000t 採炭して居りますが、事變後一時非常に減りました。特に昭和 13 年に於きまして年初にストライキ等の事件がありまして相當減たのであります。其後回復して参りまして、10 月は 510,000t に達して居ります。日本には 1 ヶ月 150,000t 位積出して居ります。私共は先程申上げましたやうに唐山に於て其事務所を訪ね。續いて坑外の状態を見たのであります。其處にはシャフトが三つありまして、其の中の一つのシャフトにはベルギー製の新式捲揚機が据付けられて居りましたが、第 2 シャフト、第 3 シャフト續いて改良するそうであります。シャフトは深さが約 500m、礦夫は約 3,000 人で 1 日の出炭量は 2,500t であります。その他附屬鐵工所、木材工場等がございます。唐山を見學した後汽車にて古冶と云驛に参りました。古冶、唐山間は約 24km であります。古冶から輕便鐵道にて 1 哩程東南に林西礦區があります。此所は 1889 年に採掘に着手したのでありまして、現在二つのシャフトがあります。其深さ 725ft で 1 日 4,000t 出炭して居ります。其外發電所がありまして、開灤炭礦全部へ電氣を供給して居ります。6,000 kVA の發電機が 2 臺、2,000 kVA が 2 臺あります。尙選炭場がありまして、各礦山から出ます炭の中灰の多いものは此の林西におきまして洗炭する事になって居ります。選炭場の能力は 1 ヶ年 550,000t であります。昭和 14 年に新たに 950,000t 能力ある選炭場を造ることになって居りまして、それが昭和 15 年の 4 月頃迄に出來ると云ふことであります。

林西の坑外設備を見ましてから趙各莊に参りましたのであります。趙各莊は古冶驛の北方にありまして目下 1 日、6,000t の出炭を致して居りますが、此處にシャフトが四つありまして、第 1 が 1,420ft 第 2 が 1,126ft 第 4 が 835ft であります。其の中の一番深い第 1 シャフトに入つて見たのであります。相當水が出て居りました。我々は入坑前着て行た洋服及下着を脱がされまして、大きな洋

服に着替へて入坑したのであります。先程申しましたやうに石炭の層は厚い立派なものであります。又坑内は整頓されており、高さも高くあります。内部の運搬は大抵電車を使って居りますが、採掘場に近き所は馬を使って居りまし

開 瀝 炭 分 析 表

炭層名	水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黄
唐山 5層	0.45	31.64	58.49	9.42	0.71
8層	0.68	34.05	47.80	17.47	0.72
9層	0.45	33.12	47.30	19.13	0.85
10層	0.29	25.61	58.39	15.71	2.48
12層	0.41	32.66	52.27	14.66	1.06
林西 5層	0.33	31.05	56.70	11.92	1.06
8層	0.37	30.77	55.25	13.61	0.82
11層	0.69	26.95	58.95	13.41	3.23
12層	0.66	24.82	54.83	19.69	1.55
14層	0.48	23.65	56.44	19.43	1.18
馬家溝 5層	0.63	26.06	51.79	21.52	1.79
8層	0.72	29.58	41.16	28.54	0.51
11層	0.81	32.22	52.52	14.45	3.00
12層	0.69	29.49	48.17	21.65	0.67
趙各莊5層西5層	1.31	36.59	49.82	12.28	1.10
7層西 7層	1.20	30.16	44.82	23.82	0.64
8層西 8層	0.80	35.03	49.92	14.25	2.44
9層西 9層	1.60	34.41	50.09	13.90	0.51
11層西 11層	1.39	32.51	46.92	19.18	0.65
12層西頂部12層	0.97	32.09	50.98	15.96	1.03
唐家庄 8層二股道西 8層	0.78	26.27	43.85	29.10	0.67
9層二股道西 9層	0.73	28.31	44.08	26.88	0.74
11層二股道西 11層	0.73	32.05	50.63	16.59	3.92
12層二股道西 12層	0.83	34.54	50.20	14.43	1.77
5層二股道西 5層	0.64	30.13	45.20	24.03	1.20

た。開瀝炭は此表にございますやうに、割合に灰が多いのであります。大部分強粘結性でありまして熔鑛爐用の炭としては只今缺くべからざるものであります。其爲め相當多量に内地に輸入して使つて居りますが、二三年前迄即事變前迄は開平炭を使はなくても間に合つたのでありまして民國 22 年頃は總出炭量 3,700,000t の内日本へ來て居たのは 200,000t 北支に 1,700,000t 長江流域に 1,550,000t と云ふ状態でありました。然るに現在日本では御承知のやうにケーキングコールが非常に不足して來ましたので、開平炭をもつと増産をするやうに申込みました爲に、來年度に於きましては先程申し上げました唐山及び林西に擴張工事を致しまして、昭和 16 年迄に年額 1,000,000t の増産をやるさうであります。さうなりますと開瀝炭礦の 1 箇年の産額が約 6,500,000t になるのでありまして、其の中のどの位になるか分りませぬが、相當量即ち 1,500,000t 以上内地に來るやうになるかと思ふのであります。

是が日本の勢力下にある資源でありますれば非常に好都合であらうと感じたのでありまして、尙其上先刻申上げた

秦皇島附近の非常に好い場所を 3,500,000 坪も同じ勢力範圍に持つて居ると云ふことは返す々々も残念なことに感じました。聞く所に依りますと不況時代には、此の炭礦を日本に賣却すべく申込みがあつたさうであります。どう云ふ譯で日本が買はなかつたか其の邊の事情は分りませぬが、其時日本が買つたならばと一層残念に思ふ次第であります。

大變長時間御清聽を頂きまして有難う御座います。是で失禮致します。(拍手起る)

○渡邊三郎君 何か御質問がございませうか。

○服部漸君 ちよつと伺ひますが、第四紀層の炭は熔鑛爐用には不適當だと云ふことを聞いて居りましたが、どうですか。

○松下長久君 それはまだ適するか適しないか分らないのであります。

○服部漸君 揮發分が 26 位のもありますね。

○松下長久君 其の種類は炭は適するだらうと云ふのですが、まだ採掘に着手して居りませぬ。それでサンプルを採つて日本製鐵会社に送つて呉れるやうに約束がしてあります。私の參りました時は此のサンプルを採ることも危険でありまして、行くことが出来なかつたのであります。

○服部漸君 さうするとまだ分らないと云ふことになりませうか。

○松下長久君 まだ分らないのであります。

○服部漸君 それから今度の石景山の熔鑛爐には何處のコークスを使ふのですか。

○松下長久君 石景山は 20 日に火入をしたさうであります。私の參つた時はまだ準備中でありまして、御承知かも知れませぬが此處に能力 250t の熔鑛爐が 1 基ございまして 19 年前に建てたものの附屬品が全部残つて居て、日本製鐵の田畑さんが専ら修繕に掛かつて居られましたが、其處では只今井陘炭を使ふことにして居ります。それから鑛石は先程申し上げましたやうに烟筒山の鑛石を持って來て居ります。所がなかなかコークスが間に合はないので、丸い野燒窯を作つておりました。私は初めて見ましたのですが 50 窯築造中でありまして、三つか四つ出來て居りましたが、それで 1 日に 100t それから井陘から 60t、六河溝から 40t、合計 200t になります。其のコークスで高爐作業に着手する豫定でありました。250t の熔鑛爐でありますけれども、200t 位しか出ないだらうと云ふことで用意をして居られましたが、私の參つた時は 9 月の 30 日でありましたが、其の時は鑛石も石灰も非常に僅かしか來ておられませぬから迎も 11 月には火入はむつかしい事と思ひましたが、其後大變御勉強になつたと見えまして、此の 20 日に火入が済んださうでございます。

○渡邊三郎 別にございませぬやうですから拍手を以て御禮を申上げたいと思ひます(拍手起る)

それでは今夕は之を以て閉會致します。

午後 9 時閉會